

一 般 質 問 通 告 書

2026年2月25日

高島市議会議員 河越 安実治 様

高島市議会議員 12番 福井 節子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

- 初問は {
1. 全項目一括質問一括答弁
 - ②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	原発がある限り、市民の健康を守るため安定ヨウ素剤の事前配布を
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>高島市は、関西電力の高浜・大飯・美浜・敦賀原発など、福井県の原発群から概ね50km圏内に位置します。</p> <p>2011年の福島第一原子力発電所の事故から15年。事故は「想定外」ではなかった事は、共産党衆議院議員だった吉井英勝さんが、「大地震で引き波があった場合、電源が喪失する」と、2006年には質問を行っています。その時に意見を聞き入れ、対策がなされていたら起こることはなかった事故です。</p> <p>現在の政権は、再稼働・運転延長を進めています。しかし、停止中でも使用済核燃料は存在し、廃炉作業は20~30年以上に及ぶとされており、リスクはゼロにはなりません。</p> <p>これまでも、安定ヨウ素剤の事前配布について市民団体の皆さんとも市へ要請行動も行い、私も繰り返し質問して参りました。</p> <p>しかし、未だ事前配布は実現しておらず、再度取り上げさせていただきました。</p> <p>安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による甲状腺被ばくを抑制する有効な手段で、特に乳幼児、子ども、妊婦にとっては重要です。その効果は「適切なタイミングで</p>	

服用できること」が前提です。そこで以下問う。

- ① 市内の安定ヨウ素剤の備蓄量は、市民の分も旅行者の分も含め、十分に備蓄されていると聞いてきたが、今でも十分にあるか。
- ② 滋賀県は独自にUPZ圏内を43㌔に設定しているが、高島市は43㌔圏外の地域が存在し、50㌔圏内にはすっぽり入る地域となっている。
福島第一原発事故でも、実際にプルームが到達した地域は、国の指定するUPZ30㌔圏外に飛んだ事は明らかになっている。また、放射能は色も匂いもなく目には見えず、風力や風向きに依って何㌔から安全地域と限定づけることは出来ない。半径の内か外かで区分するのではなく、高島市全域を一つにとらえ圏外とされている学校・こども園・高齢者や障がい者施設などにも、圏内と同様に安定ヨウ素剤の備蓄をすべきではないか、伺います。
- ③ 市民団体が昨年9月に要望されたとき、丸剤が飲みにくく、ゼリー状の安定ヨウ素剤を小学校低学年には服用出来るよう備蓄を求めましたが、検討し実施されたか、伺う。
- ④ 市担当者の説明では「原発事故が発生しても時間は十分あり、まず屋内退避をする。その後、広域避難指示が出た場合、指定の避難所へ行き、医師や看護師の指導の下、安定ヨウ素剤の服用が可能か判断を受け、バスに乗って避難する」と聞いたと思うが、そういう手順で良いか。
- ⑤ 市民の皆さんが自宅待機後、広域避難となったとき、避難先に殺到するのではないか。市職員の配置、医師・看護師の配置など、シュミレーションは出来ているか。訓練は成されているか。市民への安定ヨウ素剤の配布完了までの時間は、想定されているか、伺う。